



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月4日

上場会社名 株式会社 秀英予備校
 コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 武
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 渡辺 喜代子

TEL 054-252-1792

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,783	5.9	71	15.5	58	40.4	43	
2020年3月期第3四半期	8,271	3.5	61		41		295	

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 69百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 334百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	6.55	
2020年3月期第3四半期	44.11	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	11,140	4,392	39.4	654.58
2020年3月期	11,247	4,461	39.7	664.92

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 4,392百万円 2020年3月期 4,461百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 2021年3月期の配当につきましては、現時点では未定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,650	7.2	100	82.8	77	86.2	17	96.8	2.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	6,710,000 株	2020年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	319 株	2020年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	6,709,681 株	2020年3月期3Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、飲食、観光、交通産業のみならず多くの産業が大きな痛手を被るところとなっております。

当業界におきましても、新型コロナウイルスの蔓延は、感染に対する通塾不安や所得の減少により通塾を控える傾向を強め、業績を低下させるところとなっております。

このような経営環境のもと当社グループにおきましては、“授業のクオリティの向上”だけではなく、授業以外の教育サービス全体の充実と提供するためのツールの開発に努めてまいりました。

第3四半期におきましては、生徒・保護者・教師スタッフの安全を第一に考え、体温・体調の確認、館内の換気・消毒等、感染予防対策を十分にとることにより、生徒・保護者が安心して通塾できるよう努めました。また、小中学部・高校部ともに次年度の生徒数確保のため、低学年の冬期一般生募集と講習明けの入学活動、受験学年の秋期・冬期講習売上増加活動を重点に取り組んでまいりました。

営業費用におきましては、前期末に不採算校舎15校を閉鎖したことに伴い、人件費・賃借料・水道光熱費・校舎維持費用等、売上原価が大幅に減少するところとなっております。また、新型コロナウイルス感染拡大の収束の兆しが見えない中、夏の宿泊合宿企画等の中止、新設校の設備投資を抑制したことにより、合宿運営費・新設備品購入費・改修工事費用等が減少しております。さらに、費用対効果を検討し、夏期・冬期講習における広告宣伝費も大幅に削減いたしました。

営業外損益におきましては、大きな変動はありません。

特別損益におきましては、重点エリアへの人材の選択と集中を目的とし、当期末に18校の閉鎖を決定いたしました。これにより、店舗閉鎖損失引当金繰入額及び減損損失を計上いたしました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は7,783百万円（前年同四半期は8,271百万円）、営業利益は71百万円（前年同四半期は営業利益61百万円）、経常利益は58百万円（前年同四半期は経常利益41百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は43百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失295百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生が、それぞれ9月、1月に入学するため、売上高・営業利益ともに第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期に比べ第2四半期以降の収益性が高くなる傾向にあります。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、前期まで「高校部」に含めておりました予備校2校舎及び「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、地域別の営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの予備校2校舎及び自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

（小中学部）

小中学部における売上高は、前年を下回るものの予算を上回るようになっております。要因は、コロナ禍により入塾者数は減少していますが、年度途中での退塾者数を大幅に減少させることができたこと、個別指導部門での生徒数増加を継続できたこととあります。営業費用につきましては、賃借料・広告宣伝費等の削減に努めてまいりました。結果として、小中学部の売上高は6,757百万円（前年同四半期は7,200百万円）、セグメント利益は677百万円（前年同四半期はセグメント利益686百万円）となりました。

（高校部）

高校部における売上高は、前年を少し下回るようになっております。要因は、高3受験学年の冬期講習売上が予算を下回ったためとあります。営業費用につきましては、労務費・水道光熱費等の削減に努めてまいりました。結果として、高校部の売上高は974百万円（前年同四半期は1,009百万円）、セグメント利益は106百万円（前年同四半期はセグメント利益121百万円）となりました。

(その他の教育事業)

FC部門におきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による入学者数・講習生数の減少などによるロイヤリティー収入の減少により、予算は達成しておりますが前年実績を下回る売上高となりました。一方で、広告宣伝費の削減、オンライン会議導入に伴う旅費交通費削減により、営業費用は大幅に減少させることができました。結果として、その他の教育事業の売上高は52百万円(前年同四半期は61百万円)、セグメント利益は20百万円(前年同四半期はセグメント損失30百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて438百万円増加し、2,338百万円となりました。これは主として、営業利益の計上により現預金が増加したこと、今期末における校舎の閉鎖を決定したことにより、1年内回収予定の差入敷金保証金が増加したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて542百万円減少し、8,789百万円となりました。これは主として、有形固定資産・無形固定資産の減価償却が進んだこと、差入敷金保証金の一部を流動資産に振り替えたためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて107百万円減少し、11,140百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて490百万円増加し、3,606百万円となりました。これは主として、新型コロナウイルス感染拡大の長期化による業績への影響を踏まえ、手元資金を確保するために短期借入金が増加したこと、冬期講習1月売上計上分の前受金が発生したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて528百万円減少し、3,142百万円となりました。これは主として、社債の償還及び長期借入金の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて38百万円減少し、6,748百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて69百万円減少し、4,392百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の39.7%から39.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては2020年11月4日に公表いたしました通期の連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,207,601	1,443,366
受取手形及び売掛金	154,933	240,756
商品	89,844	72,003
貯蔵品	19,140	14,569
その他	435,937	575,090
貸倒引当金	△7,353	△7,307
流動資産合計	1,900,104	2,338,478
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,012,469	2,872,782
土地	3,342,861	3,342,861
その他(純額)	125,869	95,482
有形固定資産合計	6,481,200	6,311,125
無形固定資産		
	262,259	210,444
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,418,041	2,119,718
その他	175,839	152,539
貸倒引当金	△5,103	△4,465
投資その他の資産合計	2,588,778	2,267,792
固定資産合計	9,332,238	8,789,363
繰延資産		
社債発行費	15,643	12,725
繰延資産合計	15,643	12,725
資産合計	11,247,986	11,140,567
負債の部		
流動負債		
短期借入金	710,000	1,430,000
1年内償還予定の社債	199,960	200,080
1年内返済予定の長期借入金	337,196	261,946
未払金	555,943	634,867
未払法人税等	148,471	115
前受金	244,258	338,256
賞与引当金	158,584	45,031
店舗閉鎖損失引当金	23,392	52,680
その他	737,731	643,388
流動負債合計	3,115,537	3,606,365

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
固定負債		
社債	450,100	350,000
長期借入金	443,647	250,000
繰延税金負債	14,487	1,551
退職給付に係る負債	684,757	706,647
資産除去債務	635,725	602,508
その他	1,442,324	1,231,434
固定負債合計	3,671,042	3,142,141
負債合計	6,786,579	6,748,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	536,355	492,359
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,461,256	4,417,259
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	149	△25,199
その他の包括利益累計額合計	149	△25,199
純資産合計	4,461,406	4,392,060
負債純資産合計	11,247,986	11,140,567

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	8,271,433	7,783,815
売上原価	7,051,946	6,624,521
売上総利益	1,219,486	1,159,293
販売費及び一般管理費	1,157,720	1,087,983
営業利益	61,766	71,310
営業外収益		
受取利息	13,327	11,191
受取配当金	2,016	2,069
受取賃貸料	11,913	12,279
その他	10,006	9,545
営業外収益合計	37,263	35,085
営業外費用		
支払利息	45,086	36,026
その他	11,961	11,430
営業外費用合計	57,047	47,457
経常利益	41,981	58,939
特別利益		
固定資産売却益	20,744	-
受取保険金	10,164	-
特別利益合計	30,909	-
特別損失		
店舗閉鎖損失引当金繰入額	27,739	52,680
減損損失	298,992	10,714
特別損失合計	326,731	63,394
税金等調整前四半期純損失(△)	△253,840	△4,455
法人税、住民税及び事業税	43,464	41,685
法人税等調整額	△1,332	△2,144
法人税等合計	42,131	39,541
四半期純損失(△)	△295,972	△43,996
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△295,972	△43,996

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△295,972	△43,996
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△38,554	△25,348
その他の包括利益合計	△38,554	△25,348
四半期包括利益	△334,527	△69,345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△334,527	△69,345
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	7,200,788	1,009,518	61,126	8,271,433
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	15,687	15,687
計	7,200,788	1,009,518	76,814	8,287,121
セグメント利益又は損失(△)	686,006	121,187	△30,008	777,186

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	777,186
セグメント間取引消去	24,174
全社費用(注)	△739,594
四半期連結損益計算書の営業利益	61,766

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、298,992千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部298,992千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	6,757,372	974,302	52,140	7,783,815
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	14,900	14,900
計	6,757,372	974,302	67,040	7,798,715
セグメント利益	677,713	106,898	20,188	804,800

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	804,800
セグメント間取引消去	24,738
全社費用(注)	△758,228
四半期連結損益計算書の営業利益	71,310

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「高校部」に含めておりました予備校2校舎及び「その他の教育事業」に含めておりました自宅学習部門につき、地域別の営業管理体制をより強固にするため組織変更を行いました。それに伴い、前期までの予備校2校舎及び自宅学習部門の実績につきましては、報告セグメントの区分を「小中学部」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分方法により作成しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、10,714千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部10,714千円であります。